

第7回 中部縦貫自動車道事業費等監理会議 次 第

日 時： 令和6年8月8日(木) 15:20～

会 場： 嶺南振興局敦賀土木事務所 3階 大会議室

I. 開 会

II. 挨拶

III. 議 題

1. 事業の進捗状況等

IV. 閉 会

第7回 中部縦貫自動車道事業費等監理会議
出席者名簿

[敬称略]

福井県	土木部長	田中 克直
	道路建設課長	砂村 秀成
	高規格道路課長	小川 裕樹
近畿地方整備局	道路部長	田中 倫英
	福井河川国道事務所長	野村 文彦

第7回

中部縦貫自動車道事業費等監理会議資料

令和6年8月8日

福井河川国道事務所

令和6年7月末 大野油坂道路(九頭竜・油坂区間)

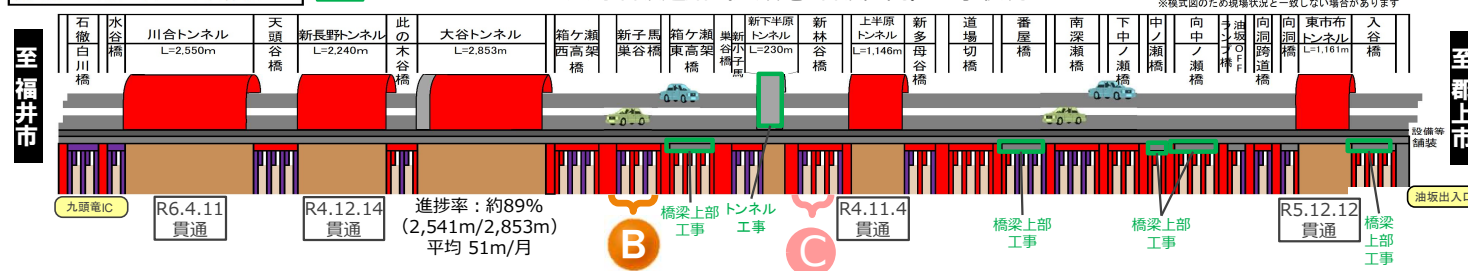
位置図



R6.7末現在
完成 施工中 未着手 R6着手予定

大野油坂道路(九頭竜・油坂区間) 工事状況

※表示は本線部分の進捗を表したものです
※模式図のため現場状況と一致しない場合があります



橋梁下部工進捗状況 (R6.7末現在)

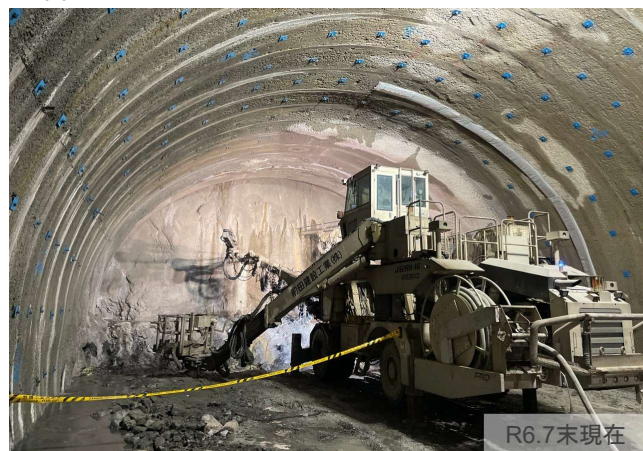
完成	31基
施工中	34基
未着手	0基
合計	65基

トンネル進捗状況 (R6.7末現在)

貫通済	4本
施工中	1本
未着手	1本
合計	6本

おおたに A 大谷地区

大谷トンネルの掘削状況



はこがせ B 箱ヶ瀬地区

新子馬巢谷橋の状況



しもはんばら C 下半原地区

新林谷橋の状況





おお たに

<大谷トンネル> 2,541m/2,853m (約89%)

- ・ 地山状況の悪化や集中湧水による進捗低下 (約2ヶ月の遅れ)
- ・ 今後も、地山の状況が悪いと想定される箇所が存在

しん た ぼ だ に ば し どうじょうぎりばし

<新多母谷橋・道場切橋>

- ・ 入札不調による3か月の遅れにより、出水期に施工
- ・ 出水による手戻り等が懸念



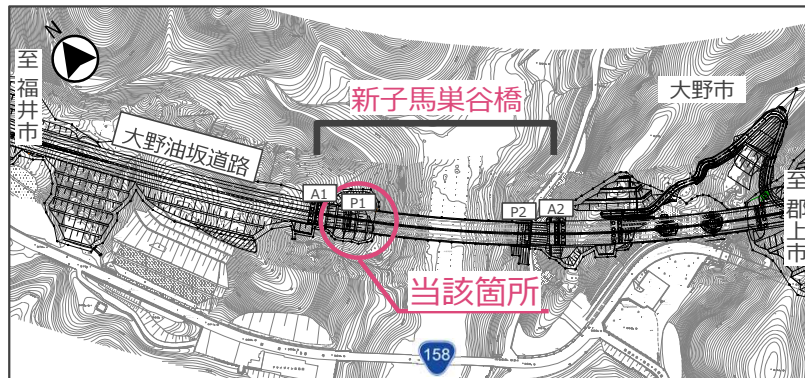
しんしばすだにばし

<新子馬巣谷橋>

- ・ 現場内で複数の工事課題が発生している (次頁以降に詳細)
〔工事課題〕
 - ✓ 切土法面の崩壊 (対策後も引き続きの微動あり)
 - ✓ ケーソンの沈下不能
 - ✓ 上部工設備等設置箇所に破砕帯の確認

- 令和6年5月中旬に、新子馬巢谷橋のP1橋脚下部工事に隣接する切土法面が崩壊し、同時に下部工事のケーソン基礎において、山側からの想定外の土圧を受け、ケーソンの沈下が進まない状況。
- 安全を確保するため法面崩壊の応急対策工事は完了したが、続く下部工事のケーソンについては、残り1.6mを沈下するには通常1週間程度で沈下可能であるが、令和6年7月29日現在で2.4cmしか沈下せず、工事に時間を要している状況。
- 現在、ケーソンの周りを削孔し、周面からの土圧を軽減させる対策工事を実施中。

位置図



状況写真



写真1 下部工事の状況



写真3 完了した応急対策工事

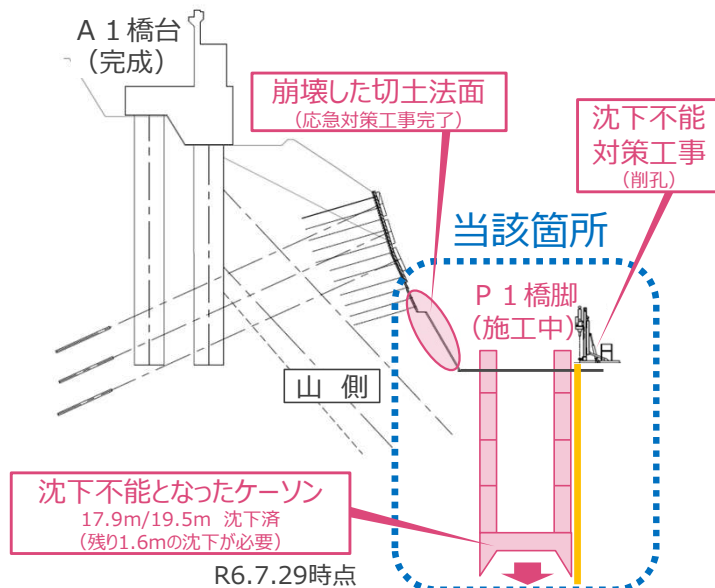


写真2 崩壊した切土法面



写真4 沈下不能対策工事の状況(削孔)

下部工事の状況



- 令和6年5月中旬に、P1橋脚下部工事に隣接する切土法面が崩壊。
- 崩壊した土砂を確認したところ、モルタルを吹き付けていた背面の岩（蛇紋岩）が想定以上に粘土化していたため、崩壊に至ったと考えられる。
- 応急対策工事として大型土のうによる押さえ盛土を実施。

法面崩壊の概要

- 崩壊地には蛇紋岩が分布しており、粘土化の進んだ破砕帯からなっている。（写真1）
- 1段目のり肩やや上部から吹き付け部が崩壊（幅約12m）を起こしている。（写真2）

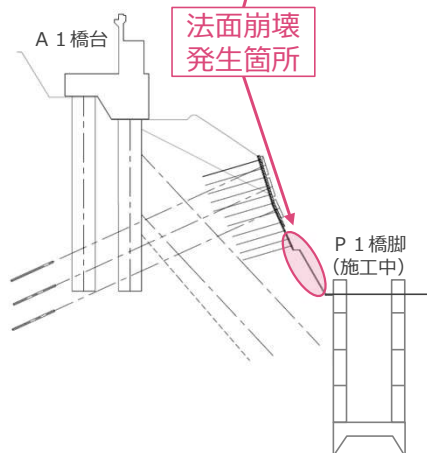
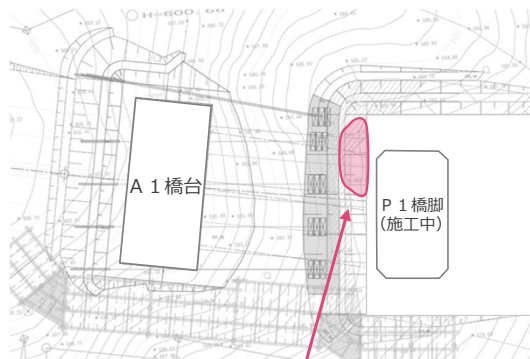


写真1 粘土化の進んだ蛇紋岩



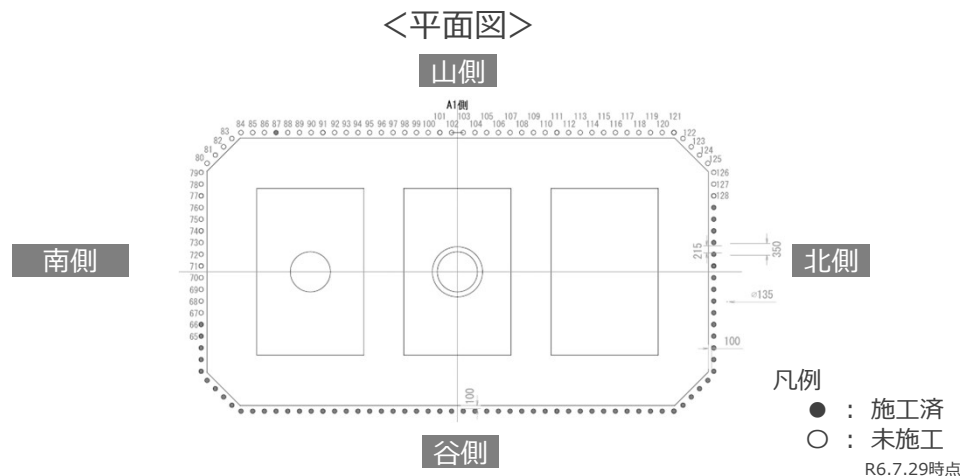
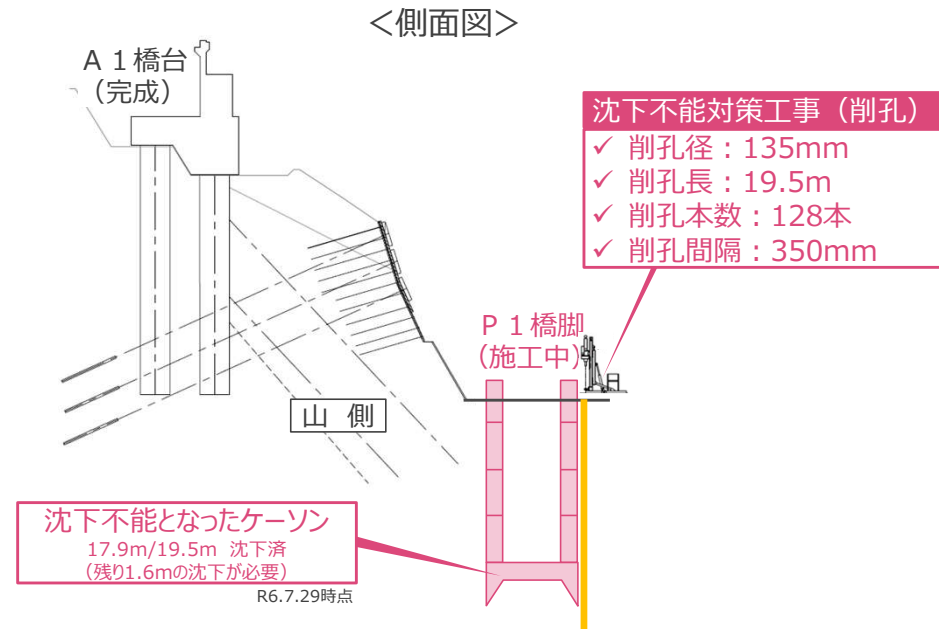
写真2 【対策前】崩壊した切土法面



写真3 【対策後】大型土のうによる押さえ盛土

- 沈下不能の原因は、山側からの想定外の土圧と推測されることから、ケーソンの周面摩擦を低減させるために、ケーソンの周辺に削孔を行い、周面摩擦の低減を図っている状況。

対策工事の概要



沈下不能対策工事の現場状況



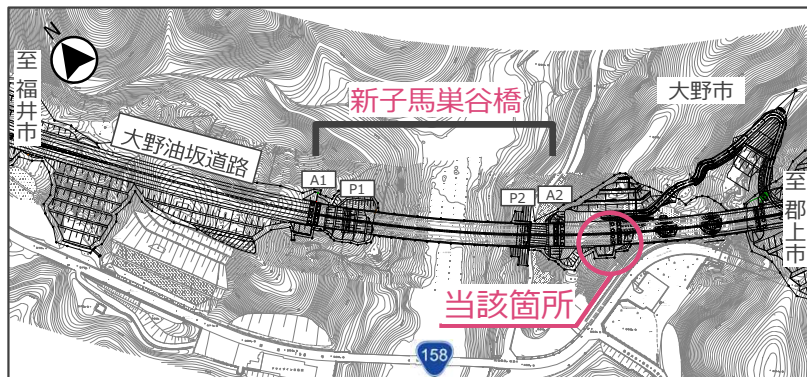
写真1 沈下不能対策工事（削孔）の状況



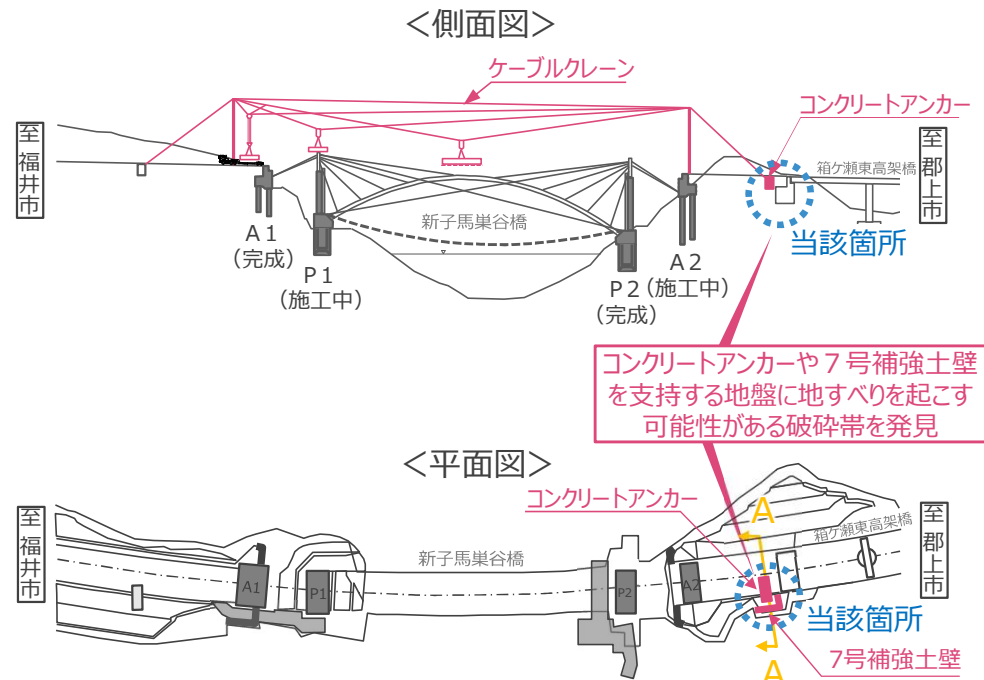
写真2 削孔した穴の状況

- 下部工事の完成後、新子馬巢谷橋の上部工はケーブルクレーンで架設。
- しかしながら、ケーブルクレーン設備のコンクリートアンカー等を設置する地盤に地すべりを起こす可能性がある破砕帯が発見。

位置図



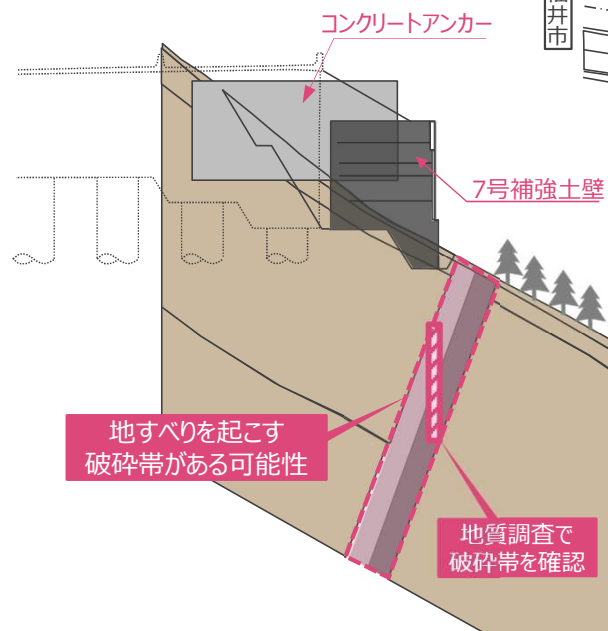
上部工事の状況



状況写真



A-A断面



破砕帯とは

- ✓ 断層運動により、地層あるいは岩石が粉々に砕かれた部分が一定の幅をもち、一定の方向に延びている場合、その部分を破砕帯という。
- ✓ 幅数cmの場合から数百mの場合まである。
- ✓ 破砕帯の岩石は強度が低いいため、地すべりの原因となることがある。
- ✓ また浸食にも弱い。

写真1 上部工事の状況